

平成 28 年 9 月



皇學館みらい対話団

林 雅也 (教育2年) 田畑奈那子 (教育2年) 塩谷友香 (国文2年)
杉森 陸 (国史3年) 倉田 亜耶 (国文3年)

◀ 第4回対話セッション「どうしたら地元食材をもっと食べてもらえるか?」。(5月20日)



私たちの主な活動としては、月一回程度で地域課題解決のために学生主体のワークショップを行っています。今までに行ったワークショップには「公共交通はどうやったら儲かるのか」「空き家・空きビル・空き店舗の賑わい作り」等、今までに全5回行ってきました。

その中で「公共交通はどうやったら儲かるのか」というテーマで開催した時には、私たちはこのワークショップをするまで公共交通、具体的には路線バスが儲からないということを知りませんでした。このテーマで行うに当たって伊勢市交通政策課の課長様より公共交通の現状について事前にお話を伺った上で、ワークショップ当日にもお越しいただき、参加ゲストの方々に対しても公共交通の現状についてお話しいただきました。

ワークショップでは、ブレインライティングというアイデアをスムーズに出すための手法などを用いてゲストの方々に話し合ってもらいました。「相撲好きの人たちばかりが乗る相撲バス。そのバスには相撲取りのペイントを施し、そして車内では相撲中継などを見ることができるようになったらどうだろうか。」などのユニークなアイデアが飛び出しました。

もうひとつの「空き家・空きビル・空き店舗の賑わい作り」というワークショップでは地域に飛び出し、伊勢市内にある「伊勢河崎いこい処」和「なごみ」を会場として使用させていただきました。

ワークショップを行う中で、私たち、皇學館みらい対話団が大切にしていることがあります。それは「いかなる個人よりも全員のほうが賢い」というチーム・ブラウンの言葉です。これまでは議論が重要視されてきました。議論とはいくつかある意見の中から最も優れたものを選び出しほかは使われないことになりました。しかし対話においては議論とは異なりいくつもある意見の中からいい部分を見つけそれらを合体させてよりよいものを作り出したりできるということなのです。この対話の特徴に、先ほどの「いかなる個人よりも全員のほうが賢い」という言葉が生きてくると私たちは考えています。

これまで5回のワークショップを実施してきました。その中で、私達が感じているのは、「人と人をつなぐ場作り」をしているということです。今後地域課題をテーマにして、「人と人をつなぐ場、対話の場」を創っていきたくて考えています。



▲▼第6回対話セッション
「BAR 未来-MIRAI」～それぞれの旅～
(7月22日)



▲地域活動に対して表彰していただきました。
(8月24日;平成28年度 社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」にて)



指導教員：池山 敦 (教育開発センター)